

## 母語は親子をつなぐ大切な言葉

子どもの日本語の習得が進んでくると、学校では日本語を使うようになります。日本で生活する上で大切な能力の習得ですが、ともすれば、日本語の習得に目を奪われ、母語の保持に関しての意識が薄れがちです。

母語を保持することも以下の点で重要なことです。

- 親子間のコミュニケーション
- アイデンティティーの確立
- 母語は、第二言語である日本語の習得や認知に関する発達の基礎を成している。

そこで、母語を保持することが大切であることを、本人・保護者・周りの子どもたちに伝えることが必要です。

### <実践例>

Aは、ボリビア国籍の子どもである。日本で生まれ、一時帰国以外は日本でくらしているため、日常会話に必要な言語はほとんど習得している。(学習言語についてはまだ十分に習得できていない。)

母親は日本語での会話はずいぶんできるが、読み書きとなると難しいため、スペイン語に翻訳してもらった通信を渡そうとしたところ、

「お母さん、日本語わかる。」

と言って、なかなか受け取ろうとしなかった。このできごとから、いつの間にかAが、日本語が話せることはスペイン語を話せることよりも高い価値をもつことなのだという意識をもつようになっていくことが心配になった。このまま放置すれば、自分自身の価値を日本人の下に置き、日本語が読み書きできない母親を軽視し、アイデンティティーについて屈折した思いをもつことになるかもしれないとの危惧をもったからである。

そこで、スペイン語話者であるB先生の力を借りて、Aにとってスペイン語は親子をつなぐ大切な言葉であることをAと周りの子どもに伝えるための授業を行った。

道徳	わかるってうれしいね
本時のねらい ○ 言葉が通じない友達とも、工夫することにより伝え合うことができることに気づく。 ○ Aにとって、スペイン語は大切な言葉であることに気づく。	
学習活動	指導上の留意点
1. B先生がスペイン語で指示を出す。 「立ちましょ。」「鉛筆を出しましょ。」 「手を挙げましょ。」など 2. 思ったこと、気づいたことを発表する。 3. B先生がスペイン語で紙芝居を読む。 ・ 1回目は、文だけを読む。 ・ 2回目は、絵を見せながら読む。 ・ 3回目は、日本語とスペイン語で書かれているプリントを見せながら読む。 4. 担任が日本語で紙芝居を読む。 5. 思ったこと、気づいたことを発表する。	・ Aには、はじめはみんなに教えないように話しておく。 ・ 2回目は、Aが動作や日本語で助ける。 ・ 言葉がわからないときに、どんなサポートがうれしいかを考えさせる。 ・ 1回目後、内容を聞き取る質問をし、何も理解できていないことを確認する。 ・ 3回の比較から、絵が手がかりになること、翻訳されたものがあると、わからない言葉の授業でも理解できることに気づかせる。 ・ 細部までわかる言葉があることがうれしいことであること、周りの子にとって日本語が大切な言葉であるようにAにとってスペイン語は親子をつなぐ大切な言葉であることに気づかせる。